

# あ・も・じ・し・る・人・生 めだかの学校だより

平成10年8月1日  
第21号

学舎：いなさ自然休養村  
〈つみくさ〉  
事務局：引佐郡引佐町  
東久留女木 472-111  
TEL 053-545-0381

## 校長訓話

第二十二回校長 武井紀夫

「、「から」。」へ。  
みなさん、20年もありがとう。

とりわけ、ずぼらを天性としてきた私武井紀夫にとって創造屋は「飄々しい屋」であり、その生き方はずるずるべったりという表現がよく似合う、いつてみれば単なる変わり者ということができようか。  
人並みに妻と夫婦となったのもう30余年の前のことであるが、考えてみれば結婚式も新婚旅行もしないままに生きてきたことになる。これがずるずるべったりのゆえんである。幸い3人の子供たちは「親はなくとも子は育つ」のいわれ通り、勝手気ままに生きていくことから、ま、これも人生と決め込んでいる昨今である。  
「旅してみようよ。」といったのは他ならぬ妻であった。



「そうだな。」  
創造屋を始めて20年、「、「」

（恩師森信三先生が創造屋のためにつけてくださったマーク）を「。「」とする時だ。20年目の区切りというのなら、旅の理由にな

る。当然、妻を伴ってなどという殊勝なことは初めてであることから、気恥ずかしさもあつて心中複雑ではある。  
紀元前と、12世紀と、15世紀と、18世紀と現代が埃が貯まるように積もり積もつてきた歴史のスペイン・カステイリヤ。グレコやゴヤやベラスケスが血をほとばしらせているような炎天のスペインは撰氏43度の灼熱の下にあった。「オーラ」「グラシアス」「アデオス」位しか話せない我々は、ひたすら古都の街を歩きつづけた。腰につけた万歩計は二万歩、三万歩を数えた。  
狭い路地に建つ何百年もの歴史をもつ建物の中で堂々と生活をしている明るいスペインの人々、何の悩みもないように屈託なく微笑みを投げかけてくる。平和で活気に満ち、栄光と誇りに包まれているようだ。ああ、このスペインにもむらおこしや地域づくり事業があるのだろうか？  
日本の情報も、日本人との会話もない異国の地に立って2週間、まるで幻想の世界に取りつかれたように頭の中が真っ白になっていく我々がそこにあった。  
帰ったら、みんなに言おう。20年もの長い間、創造屋を育ててくださり、ありがとう。

## めだかの学校伝言板

..... 第21回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成10年9月4日(金)6:20PMより .....

- 校長 / 武井 紀夫      教頭 / 金子 芳美  
 用務員 / 柴田 宏祐  
 給食係 / 渡辺三ツ子(チーフ)・伊藤英雄・名和理代子  
           伊藤茂男・関京子・寺田正夫・鈴木真弓  
           渥美登良男・片岡繁輝・天野恵美子・中嶋豊  
 受付 / 中川泰・大塚加奈子・服部守孝・藤原俊子

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1037-286  
 いなさ自然休養村「つみくさ」  
 ☎ 053-543-0321 (開校日のみ)

継続生・「進級・100文字の主張」  
 テーマ

- ① めだかに望むこと
- ② 私の人生観
- ③ 私のこと
- ④ 私の大好きな人
- ⑤ どうしてもいいたいこと
- ⑥ いま、一番やりたいこと
- ⑦ その他ご自由に

# めだかの学校

## 「建学の精神」

■「第六期の第二回目の開校だより」です。  
あらためて、「建学の精神」に  
思いを馳せまじやう。

### ●建学の精神

人や自然の心を大切に人間であるためには、時には先生になり、時には生徒になつて、おもしろおかしく学ぶということが建学の精神（こころ）。

「もう一人の私」発見、「もう一人のあなた」発掘により、ともに学ぶ喜びを享受し、人生を楽しくやることが目的である。

### ●基本に流れる精神

学校の設置母体はあくまでも、おもしろ人立。好奇心と遊び心、そして挑戦が「めだかの学校」のコンセプトである。先生も生徒も上下関係を意識しないで、互いの人格や技量を尊敬していくためにはあつたらんとした楽天的なプラス志向の校風が漂っていることが肝要である。のんきな顔をして、しなやかに、けれどしたたかにふるまう先生と生徒の出会いがこの学校のモットーである。

生徒の皆さん、建学の精神「覚えていきますか？」ただ、おもしろい、いろいろな変な連中が集まっているだけではないんです。  
好奇心と遊び心、そして挑戦の心がコンセプトなのです。

人と人との出会いと交流のなかで、「もう一人の私」発見、「もう一人のあなた」発掘ともに学ぶ喜びを享受し、人生を楽しくやることが目的なのです。「だから、受動的なお客様であつてはならないのです。自らが積極的に物事にぶつかっていく能動的な挑戦が必要なのです。出会いと交流のなかで、大いに自分を磨いて欲しいと思います。言い出しな、 榎原幸雄

# めだかの助業 泳ぎ回るめだかたち

泳ぎ回る「めだかたち」——。そこには、人と人との心のふれあいがある。建学の精神にもあるように、自らの行動、活動が「めだかの課外活動」でもある。

●長野県天竜村の廃校で、めだかの生徒がコンサート。ギターとソロボーカルの成田雅志ギターの小栗茂、パンジョーの西原弘、口の上嶋裕志、その他音楽の仲間たち。廃校は、子どもからお年寄りまで集まり、感銘に満ちる。関京子さんは、涙でグシャグシャ、またの再会を約してきました。

●引佐町東久留女木の久留女木小は、生徒数は12名。併設だった幼稚園は他園に統合。小学校も統廃校ゆれる。危機感をもった先生と住民は、久留女木を「音楽の里」にしよと、校庭にある大きなモミの木の下で、毎月一回モミの木コンサートを企画する。二回目の5月は成田雅志、2回目6月は小栗茂。子どもたちも先生も住民も、生の音楽に大喜び。

●三ヶ日町の三ヶ日西小では、昼休みにコンサート。加茂光廣が草笛を吹く。草笛の爽やかな音色は、校内にひびかり、子どもたちも口びるをピーピー、柴田宏祐校長は、これからもコンサートをやりたい、とのこと。めだかの音楽家は手を上げて！

●磐田郡豊岡村に、7月12日オープンした豊岡「元氣村内キッチン「味里」の深夜祭に、津軽三味線とドラムのジョイントコンサート。坂柳博明は、ドラムを叩いて会場を盛り上げる。坂柳幸子とめだかの生徒は、店主の金原志郎の門出を祝して、ワッショイワッショイ。物産市には、市川祐一のお茶、深澤明男のみかん、キヌイ、伊藤英雄のネギと芋、鈴木正士の野菜も出るよ。（全員を招待したかったです。代表の方のみとさせていただきます）

●7月上旬長野県南信濃村に、松本泰榮、渡辺三子、野末かつ子、伊藤八右が、物産

品指導に出かける。「夏のものがない」という玉置洋二に、「水羊かん」と「わらび餅」のつくりかたを教える。前回は「そばまんじゅう」を指導して、南信濃村の名物を二つつくった。

●岐阜県稲垣町の夢倶楽部早川裕康と、遠州夢倶楽部久米久乃利は、お酒を通しての交流がつづく。新しい商品開発、新しい販売ルートもそうした活動の中から生まれてくる。

●引佐町の小さなログハウスのレストラン「リンデンバウム」のランチの「ハムステーキ」は、湖西市「おらんじビレッジ」佐原剛の手作りハムを使っている。飲み物のジュースは、天竜村の関京子の桑の実、しそ、柚子、リンゴ。店頭には、ユズみそ、フキみそ、エゴマみそ、どくだみ、笹、ユズなどのアメ。低農薬オーレングジュース、国産レモンを使ったレモン汁は、たちはなファームの岩井一代。料理にも使う。かと思えば、富士川町夢織工房の天野恵美子の草木染織物、浜松市佐宗光子のレザークラフトの小物が並んでいる。

●天竜村の袖餅子の里の案内看板を、切絵でつくる。夢風舎上嶋裕志の指導で、切絵の技術も上達したとか。学舎「つみくさ」のチラシは加藤修「リンデンバウムのチラシは照井泰子、鈴木真弓の「マクラーメ展」案内は、かきは、上嶋裕志、テザイン、コピー、製本、看板なんでもできます。相談にのります。

## 「皇遠実業」「イモ講座」?

6月13日、雨「なんでもあり農園」では、サツマイモのツルを植え付けました。約250本のツルは前回「めだかの学校」で「イモ講座」を担当してくれたイモ博士伊藤英雄の「協力によるもので、紫芋、オレンジ芋、くすり芋、紅アズマなど7種類。雨の中で植え付けが良かったのか、スチク育っており秋の収穫が楽しみです。芋掘り大会も計画中です！芋といえは、春野町のすみれ祭り「の時の「すみれ」」は、紫芋が使われます。秋の産祭の「すみれまじゅう」と、紫芋です。すみれ愛好会の尾上美智子と、伊藤英雄の紫芋の合作が、春野の祭りを盛り

## 「ピオトープ」を見てきました

先日、機会があつて浜松市館山寺温泉のペイストリート沿いのホテル群の裏に広がるピオトープ（多様な動植物が生息できる自然的環境）を見てきた。このピオトープは、三方原台地の端部の斜面と谷からなっており、斜面は照葉樹を中心とした自然林であるが、谷部はかつて水田であった形跡があり現在は草などが繁茂している。谷がペイストリートと呼ばれる県道を挟んで浜名湖に接する下流部は、現在でも水田で、その一部を「ブラワーレンズ庄内」の方が菜の花やコスモス畑として活用し観光客などを楽しませている。

近くに住む山本さんが二人で整備し、「角田（すみた）ピオトープ」と名付けられているこのピオトープは、谷部の湿地に繁茂して草を刈り取り水面を確保して、小魚や昆虫の幼虫の生息環境を作っている。斜面の藪には伐採した竹を積み上げて、昆虫などの営巣場所を提供している。また、訪れる子供たちのためか、廃材を利用して水車や「ししおどし」、竹笹で囲われた小屋や丸竹で作られた樹上の隠れ家なども作られている。さらに、生い茂った笹竹の上部が垂れ下がり、かなり広い雨宿りの空間を生み出しているところが、一緒に行つた方々は皆中に入り歓声を上げていた。

このピオトープは、館山寺温泉の中にありながら、種々の事情があつて開発されなかつたことと、ピオトープとすることに對して地権者の理解が得られていることである。また、谷の上はかなり宅地化が進んでいるが、流域が異なり宅地の雨水や家庭雑排水が入って来ない。さらに、厚い礫層で形成されている三方原台地に降つた雨が、斜面の途中から湧水となつて流れ出ている。この湧水は年中安定しているとのこと、安定した水源と汚水の入らないことが動植物の生息に好条件となつている。

11月21、22、23の3日間引佐町多目的の

しい空間を形成しており、どこでも誰でも出来るものではないが、しかし、忘れられていたこの環境を見つけて(山本さんは思っていたのかも知れないが)、特色を最大限に生かした環境づくりをされている、埋め立てて宅地にしたり、産業廃棄物の処理場になつても不思議ではないところが、模範的なビオトープになつており、もう地権者たりとも、開発を言いつけないのではと思われ、開発や自然破壊に対する対応手段として、反対運動や住民投票など何よりも強くてスマートな対抗手段ともなっているのではないかとと思われる。地域環境の保全や改善、自然保護などに関心を持つ人、既に関わっている人は、是非一度この「角田(すみだ)ビオトープ」を見て頂きたいと思う。(松本芳廣生徒)

## 第九回地域づくり団体全国研修交流会山形大会開催

「海抜0mから2236mの頂きへ昇る鳥海山のように!」

「夢はきつとかなう!」第九回地域づくり団体全国研修交流会山形大会が、8月27日(木)、28日(金)の2日間、山形県飽海郡遊佐町、鳥海自然文化館「遊楽里(ゆらり)」で開催される。

大会には、全国の地域づくり協議会や行政、民間団体などから400人が参加する予定。第二回目の27日は、午後1時から開会式、1時40分から11の分科会に分かれて、2時間討議討論されるが、テーマは①女達の夢「もつたない、おもしろそう、なんとかなるの地域づくり」②市民の夢「巻き込む、耕す、遊ぶの」人おこし「戦略」③温泉の夢「湯に浸って考える、温泉の明日」④あるさとの夢「地方人と都会人」一緒に創る「オンラインワン故郷」⑤広域の夢「……」⑥出合いの夢「……」⑦情報への夢「……」⑧大学の夢「……」⑨STEMの夢「……」⑩夢トク「……」⑪夢コンサート「……」と、11の夢を語りあう。2時間とこれほどの夢を語りあえるか疑問だが、残りは、夜の分散交流にマカされてい

るのかも知れない。分科会を担当するのは、山形県の地域づくり団体の人たちである。3時40分から全体交流会。開催地セレクト、分科会の報告表彰など、6時30分から、宿泊別の分散交流会である。宿泊地は、酒田市、遊佐町など8ヶ所に分かれて分宿、それぞれに地域団体が独自の企画を立て、分散交流会を盛り立てている。

28日は、分散交流会(こ)に地域文化の観察とアウトドア体験などである。11時30分分散閉会となる。

はてさて、「めだかの学校」と「地域づくり全国交流会」との関わりは、第四回の岐阜大会に上嶋裕志と榊原幸雄の2生徒が参加してからである。この大会で、いま「めだかの学校」の生徒になつている岐阜県福岡町の早川裕康や大須賀町横須賀倶楽部の鈴木武志、竹内誠人らと行きあう。その後、第六回の新潟県大会に石野省三、上嶋裕志、榊原幸雄の3めだかが参加し、野外での交流会で舞台にのぼり、県の職員と司会のお姉さん(清水市出身)の5人で、「めだかの学校」の校歌を合唱、高らかに全国へ発信。オマケに県の職員をオダテ「来年は静岡でやります!」と宣言させてしまう。「おらつ、知らない!」と。

そんなこともあつて、第六回静岡県大会には、「パラさん、めだかの学校でも責任とつてよ!」ということから、分科会の1つを受け持つ。「交流」と題うって、「めだかの学校」特別教室を開く。

校長、武井紀夫、教頭 榊原幸雄、用務員 加茂光廣、給食係 水村春江、先生 樋田睦子「ぶつて本番のりにする。大会には、「めだかの学校」も多数参加し、成功の一端を担ったのは言うまでもない。こうした行動と活動は、全国の地域づくり団体やそれに関わる人たちとの交流になり、言い出しづきの榊原幸雄は、9年8月の鹿児島県大口市で開かれた鹿児島県地域づくり団体交流研修会で基調講演をする羽目になり、また秋田県鹿角市の奈良努、岐阜県福岡町の早川裕康、長崎県多良見町の山口雄三が生徒になつた。熊本県鹿本町からは、視察にも来た。今回の山形県大会には、北島亨、榊原幸

雄の2名が参加する予定である。どんなお土産があるかお楽しみに!。(榊原幸雄生徒)

## 「サンククラブ」ホームページ開設

三遠南信地域の交流促進をテーマに活動している「サンククラブ」(本島慎郎会長)が三遠南信地域の食を中心テーマにしたホームページを開発した。

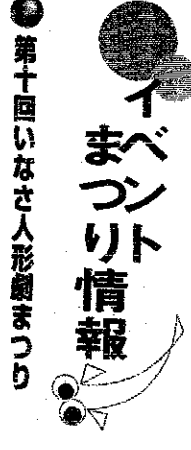
単なる情報発信にとどまらず、ホームページの基本コンセプトは「人間と自然のカントリーライフ」。食に関する情報として「里の宅急便」という名称で地域内特産物の通信販売の予約を受け付ける。

めだかの生徒も2名参加している。天竜村の関 京子は「祭りの里セツト」(ゆべし、袖みそ、袖ジャム、ゆほ志、柿巻き)と、「希望」によって売られるも可能とか。豊岡村の伊藤英雄は、ネギと芋。ネギは、ネギ娘として商標登録中とか。芋は芋兄弟五人衆として、シモンシロー・オレンジ準人、薩摩むらさき・アントニー・紅というニックネームを付け紹介している。

ホームページでの販売受注や顧客管理は「三遠南信地域づくりサポーターズ」(地域おこしを实践する民間の個人や団体活動の連携を深めていく体制を支援する)が協力してくれる。

めだかの生徒諸君、ホームページの積極的な活用を待っています。また、ホームページを開いている人はリンクを貼って下さい。

アドレスは <http://www.japan-net.ne.jp/sunchi/index.html> (本島慎郎生徒)



**イベント情報**

● 第十回いなざ人形劇まつり

11月21、22、23の3日間引佐町多目的ホールを中心に、県内からプロ、アマ36劇団が参加して開催。野外では、お店も並び、大道芸もあつておもしろい。問い合わせは、引佐町役場企画商工観光課へ。

● 第四回しずおか未来づくりネットワーク地域フォーラム

しずおか未来づくりネットワークによる地域開創フォーラムの第四回は、11月27日(金)28日(土)の2日間、清水市三保の三保園ホテルで開催される。

第一日目の27日は、12:00に清水市、由比町、蒲原町、富士川町の4地域における考え方や意識込みなど、地域団体の案内で視察交流する。15:00開会式・表彰式

17:00交流、夜なべ談義。  
28日9:00分科会。担当団体は、清水市、由比町、蒲原町、富士川町および3表彰団体。  
11:00統括閉会。  
※未来づくりネットワークには、県内の63地域づくり団体が加盟している。詳細は次回「めだかのたより」で。

● 豊野町産業まつり

11月中旬。すみれグッズも販売されます。

● 水俣・豊橋展

8月26日(水)・8月30日(日)  
豊橋市民文化会館 午前10時〜午後8時  
水俣病は、1953年に熊本県の水俣湾周辺に住む人々に発生した公害です。公害環境問題の原点である水俣をあらためて学びたいと思います。主催は水俣・豊橋展実行委員会ですが、その事務局および宣伝マンを預かっているのが、めだかの金子芳美です。問い合わせ 05327880189

● 鹿原郡3町のイベント

(由比) 由比正雪供養祭 9月12日  
正雪供養祠公開 午前10時〜  
● 由比宿まつり 10月25日  
問い合わせ 由比桜えび館

● 富士川

第八回ふじかわキウイマラソン  
11月15日 3.65・15km 3種目  
● 一日五十嵐樹科医院見学活用  
ワークショップ 9月27日(日)  
● 駿河路ウォーク 11月9日(日)

# トピックス

あれ?  
「めだかの学校」?!

◇岐阜県美濃市に「メダカの学校」がある。どんな学校かそつこのぞいてみたいが、新聞記事でみると、美濃市内に住む主婦やお年寄りらでつくる手工芸グループ。その作品展でした。

動機は、商店街の空き店舗の有効利用などを目的に、一昨年趣味で手掛けているパッチワークや美濃和紙を使った小物などを展示したのがキツカケで開校。はじめは6人だったが、さまざまな手工芸を行う市内の主婦やお年寄りの輪が広がり、現在は40名の会員がいる。  
(めだかの生徒 花井孝より)

◇飯田市大鹿に「めだかの学校」?!

大鹿区のむら興レグループ「鹿の会」が休耕田を利用して、観察池をつくり「めだかの学校・大鹿分校」と名づけて、めだかの繁殖に取りくんでいる。池は20㎡あり、メダカやタニシが育っているという。区の中を流れる玉川は、かつては蛍もたくさんいたが、今は生活排水などの汚れで激減。復活を願って、他の地区にも分校ができればと「分校」と名づけたとのこと。

(飯田市上久堅 風土舎通信より)

## メダカ春秋

◆今度の自民党の総裁選の結果は、民意と党の論理に大きな乖離があると批判されている。私達の地域でも乖離がある。子供が通っている学校のPTAの会長を年の順で決めたり、自治会長を順送りに選ぶ、市町村や県議会の議長も順送りである。身のまわりから好ましくない風土を変えなければならぬ。

◆ある人が、地域とは、力(労働)の入れどころ、金(消費)の入れどころ、知恵の入れどころであると言っていた。かつて、多くの人は地元で働き買ひ物をし、青年団や祭りなどで語り議論していた。しかし、交通手段やメディアの発達、産業構造の変化などにより、今は外で働き外で消費し外で遊び、地元では寝るだけと言う人も多い。田舎でも街なかでも差はない。力とお金、知恵の三つが地元で落とされるなら、元気があふれ地域が戻ってくる。せめて知恵だけでも少し地域のために出してみるようにしなければならぬ。

◆これまで、世の中は民間企業活動と行政によって支えられてきた。会社が元気であれば社員も潤った。官僚支配、行政依存である程度道も良くなった、ゴミも持つて行っ

てもらえる。しかし、市場原理や競争原理の民間企業、旧態から脱皮できず金もなくなってきた行政に頼っている、社会は豊かになれない。これからは、企業と行政に加えて第三の力が大きな役割を発揮する。この第三の力とは、市民活動である。すでに、各地で環境保護団体やボランティア団体、地域づくり団体が実績を挙げており、これらをまとめてNPOと呼ばれる。メダカの生徒にもこうした団体で活躍されている方が大勢いる。そしてメダカ自体もこうした第三の力である。第三の力は、これだけで動いても限界がある。第一、第二の企業や行政と連携し、パートナーシップを組むことにより大きな力を発揮する。企業と市民の対立、行政と住民の対立では疲弊が溜まる。

◆メダカは、人と人の交流の中で自己発見を図る場、人と人とのネットワークを拡張する場である。そして、各種団体同士、人と団体とのネットワークのキーストーンでもある。めでたく、第6期を迎えるメダカが、建学の精神を忘れずに歴史を積み重ね、企業、行政、市民という二つのセクターの三次元的なネットワークの要という役割を発揮し続けることを願っている。  
(なんでもあり農園小作人の松)

## 事務局より

### ■六期の入校手続きを!!

六期は10年9月1日から11年8月31日までです。  
新入生・継続生ともに手続きが必要です。

新入生・継続生ともに入学手続きが必要です。同封の入校申込書に記入し入金1000円を添えて提出してください。在校生で、手続きがされていない方は自動的に名簿からはずれます。入校金納入をもって「めだかの学校生」となります。

### ■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思えます。次回発行日は、11月ですので、10月20日までに事務局へファックス、又は封書にてご送付ください。

### めだかの学校事務局

〒431-0253  
静岡県引佐郡引佐町東久留女木  
472-1111  
「リンデンパウム」内 榎原幸雄  
TEL・FAX  
0536545-0668-1  
※「つみくさ」は学舎のみです。  
すべての連絡・お問い合わせは、  
「事務局」にお願いたします。